「オープンブック・マネジメント」

著　者：John Case
翻　訳：佐藤修
出版社：ダイヤモンド社
発　行：2001年10月



オープンブック・マネジメント（OBM）とは財務諸表を中間管理職のみならず、工場で働くパートタイマーまで企業の全従業員に読ませ、分析させて、どうすれば企業業績が向上するかを考えさせるというマネジメント手法である。OBMの考え方の根底にあるのは「利益をあげるために市場のなかで競争をしているのだということを、従業員みなが理解している会社をつくること」である。

本著が出版されたのは2001年のことであり、最新のマネジメント手法というわけではないが、会計情報の有用性は年々たかまっており、OBMが現在の企業においても重要なツールであることはかわらないだろう。

では、起業家教育とOBMはどのような関係にあるのだろうか。一般に企業規模が大きくなればなるほど個々の従業員の仕事の分業化が進み、自分の仕事と企業業績が結びつくという実感が失われる傾向にある。自分が組織内の小さな歯車でしかない状況では、自立性、積極性、創造性、チャレンジ精神といった、いわゆる起業家精神を持つことは難しいだろう。しかし、起業家精神は自分が起業家ではなく一従業員という立場であっても身につけるべき精神である。

OBMでは月次や週次の財務諸表を従業員に公開し、読み方を教え、そして自分の仕事が最終的な財務業績にどのようなインパクトをもたらすのかを考えさせる。OBMが浸透すれば、全従業員がつねに全社的な視点から自分の仕事を考えるようになり、全員が新しいことに立ち向かう同志としてお互いを仕事のパートナーとして認め合うようになるわけである。このような従業員の経営への参画を通じて従業員は起業家精神を身につけていくはずである。

このように書くと大企業のためのツールという誤解を招きそうであるが、実際はOBM採用の企業のほとんどが中小企業、それもベンチャー企業であると

いうことだ。そして、それらの企業がOBMのような経営革新手法を通じて今では大企業になっている現実を考えると、やはり中小企業から生み出される新しい考え方に今後さらに注目する必要があると考えさせられるのである。

大阪商業大学 総合経営学部 経営学科 准教授
起業教育委員会 委員　坂手啓介